

27th Miller Conference on Radiation Chemistry 参加報告

2011年5月20日から25日にかけて、スウェーデンで27th Miller Conference on Radiation Chemistryが開催された。ミラー会議はヨーロッパ各国で隔年開催されている。会場は首都 Stockholm から長距離列車で3時間ほどの所にある Siljan 湖の畔の Tällberg という避暑地で、のどかな田舎町だった。ヨーロッパを中心に、北米、中国、インド、ニュージーランド、日本などから約80名の参加者がおり、20件の招待講演、事前審査で選ばれた若手研究者による8件の口頭発表、45件のポスター発表があった。



写真1 講演会場の様子



写真2 招待講演の様子

発表内容は放射線化学初期過程、ラジカル・イオン反応、高分子化学、材料科学、原子炉応用など多岐に渡り、活発な議論が交わされた。筆者は Jay LaVerne 氏（アメリカ Notre Dame 大学）や Robert Crowell 氏（アメリカ BNL）によるナノ粒子や固体液体界面における放射線化学基礎過程の講演に特に興味を引かれた。会議が行われたのは夏至の一ヶ月前で、日の出が午前4時頃、日没が午後

10時頃で、昼が長い北欧の初夏だった。スウェーデンでは6月に夏至祭が行われるそう。航空機の便の関係で、1日目の Welcome dinner とその後の講演を聞くことができなかった。2日目は午前8時30分から始まり、若手研究者の口頭発表などの後ランチとなった。ランチの後はディナーまで自由時間で、参加者はコーヒーを飲みながら議論したり、プールで泳いだり、テニスをしたり、周辺を散策したりと気ままに過ごしていた。ディナー後のセッションは午後9時30分まで続いた。2日目は午前のセッションの後、長い昼休みとなり、ディナーの後にポスター発表があった。筆者は水和電子のフェムト秒パルスラジオリシスについてポスター発表を行った。



写真3 エクスカーション、Siljan 湖畔の風景

3日目は午前のセッションの後、エクスカーションがあり、夜にはカンファレンス・ディナーとなった。エクスカーションは Siljan 湖対岸の Mora という町までバスで行き、Mora 出身の19世紀の画家 Anders Zorn の美術館・邸宅などを見学した後、Siljan 湖をボートでクルージングしながら Tällberg まで戻って来た。その後のカンファレンス・ディナーではスウェーデンの伝統舞踊などが披露され、参加者はワインを飲みながら議論に花を咲かせ、夜を明かしていた。4日目は午前のセッションの後、長い昼休み、午後のセッションとなり、会議の全日程が終了した。5日目の朝に Tällberg を離れ Stockholm へと戻った。ランチからディナーまでが自由時間というスタイルの国際会議は筆者にとって初めての経験であったが、各国の著名研究者や若手研究者と議論することができ、有意義な会議だった。

(大阪大学産業科学研究所 法澤 公寛)